



#### 4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か		現行の手段でよい	○	一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している (90%以上)		おおむね達成 (70~90%未満)	達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度	○	重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

#### 5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実			○	
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	自治功労章の対象として認められる職について、平成26年度の改正以降変更はないが、関連法改正等により変更される場合を含め、随時見直しを行う必要がある。コストについては、各支出について可能な限り維持または縮小できるよう努めているが、開催年度によって受章者数が大幅に変わることから一定化することはできない。
見直し・改善内容	今後も地域に貢献されている方について、自治功労者の対象として認められる職を見直す等、対象者の充実を図りたい。令和4年度は、コスト面での改善点として、式典の開催場所を変更することにより、会場借上料を削減することができた。